

学校番号	24	学校名	静岡県立吉原工業高等学校	校長名	増田 陽一
------	----	-----	--------------	-----	-------

1 スクールミッション

製紙産業・輸送機器関連産業・化学産業等、多様な産業が集積する工業都市の中にある、地元に根付いた工業高校として、技術革新を見据えた最先端の工業教育と、ものづくり教育を通して、Society5.0を迎える世界に対応した、確かな知識と技術を身に付け、地域の発展に寄与できる人材の育成を目指す。

2 スクールポリシー

グラデュエーションポリシー	カリキュラムポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>～本校では卒業までにこのような力を身に付けます～</p> <p>われらの信条「努力ー求めて学び、耐えて鍛えよー」のもと、「一生モノの自分づくり」を掲げ、ものづくり教育に加え、キャリア教育や道徳的教育を充実させることで社会人基礎力を醸成し、Society5.0に代表される変化の激しい社会に対応できる人材を育成する。</p> <p>＜育成を目指す資質・能力＞ ～ 吉工G P 7の達成 ～</p> <p>(1)協働力、(2)受信力・発信力 (3)行動力、(4)自己管理能力 (5)技術力、(6)職業人倫理観 (7)進路学力</p>	<p>～本校ではこのような学びを行います～</p> <p>(1)キャリア教育や道徳的教育を充実させ、主体的な学びおよび対話的な学びへ向けた力を高める。 (2)ICTの有効活用や対話的指導を充実させ、個別最適な学びを実現し個々の学びを深める。 (3)少人数教育や実習を通して、専門的な技術・技能・知識の定着と、これらを活用したものづくり実践から課題解決能力を高める。 (4)学校行事や部活動等を通じた人格形成や、実習等における協働意識を高める。 (5)多様な進路選択に向けて、業務に活用できる資格取得の機会を提供する。</p>	<p>～本校ではこのような生徒を求めています～</p> <p>(1)ものづくりに興味があり、工業各分野の専門的な教育に積極的に取り組める生徒。 (2)何事にも努力を惜しまない向上心があり、様々なことに挑戦し続ける意思がある生徒。 (3)自分のことだけでなく、他者を助け、協調することができる生徒。 (4)ルールを守り社会人として必要なマナーを身に付けようと努める生徒。 (5)吉工での教育を通して「ものづくりマインド※①」を身に付け、「キャリアアンカー※②」を芽生えさせることで、多様な職業に対応可能な社会人基礎力を育成する意志がある生徒。</p>

- ※① ものづくりマインド：SMS教育の実践により身に付ける「ものづくりマインド」は、工業以外の様々な職業でも活かせる。※吉工定義
- ・センス（S）：多感で柔軟性のある高校時代に工業教育で体験的に学んだことは体に染みつく。染みついたことは、実際にそれが求められる場面になると、直感で理解し行動できるというセンスとなる。このセンスは工業分野以外の多様な職業でも活かせる。
 - ・マナー（M）：5S（「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「しつけ」）の徹底、技術者倫理（法令や企画書を遵守したものづくり）、道具や材料の特性に配慮する気配り等、技術・技能者として身に付けたマナーは、社会全般に通用するマナーでもある。
 - ・スピリット（S）：ものづくりや研究を通してチャレンジ精神や努力する心を身に付ける。そのスピリットは人生の様々な場面で活かせる。

- ※② キャリアアンカー：その人の職業人生における根っこのような核となるもの。※吉工定義
- ・困難な事態に直面したときに、「自分にはこれがあるから大丈夫」と思えるものを「キャリアアンカー」として芽生えさせる。

3 スクールポリシー具現化の柱

ア 安心安全な環境づくりへ向け生徒の主体的な「生活安全」「交通安全」「災害安全（防災）」への取組を充実させ、生徒の心身の健康維持を支援することで、生涯に渡る安全・健康意識の形成を図る。

イ 価値観の多様化等の社会変化へ対応しながら、自立や社会参画へ向け、生徒一人ひとりの教育的ニーズを早期に把握し、これに対応する適切な指導および必要な支援を行うことで、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服させる。

ウ キャリア教育や道徳的教育を充実させ、主体的な学びおよび対話的な学びへ向けた力を高める。

エ ICTの有効活用や対話的指導を充実させ、個別最適な学びを実現し個々の学びを深める。

オ 少人数教育や実習を通して、専門的な技術・技能・知識および安全意識の定着と、これらを活用したものづくり実践から課題解決能力を高め、業務に活用できる資格取得の機会を提供する。

カ 部活動やホームルーム活動・生徒会活動・学校行事といった特別活動を通じた人格形成を図る。

キ 地域から期待・信頼される工業高校として、更なる教育改善を図りながら情報公開を充実させる。

ク 円滑かつ適正な事務執行に取り組み、信頼される学校事務を推進する。

ケ 校務の整理・削減等を図り、教職員自らが安心・安全に職務を遂行できるよう業務改善に努める。

様式第1号

4 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署	
ア	安全教育的推進と危機管理能力の向上	安心安全な学校づくりを推進する。	・信頼できる先生がいると答える生徒80%以上。	管理職	
		交通マナーおよび危険予知の向上を図る。	・「登下校時、交通法規を遵守している」と答える生徒100%達成。 ・自転車乗車時、ヘルメット着用率100%（1年生） ・イエロー切符受領者各学年20人未満。	生徒支援部	
		自転車通学者が主体的に車両整備に取り組む。	・TSマークに関する指導を徹底し、整備不良事故0件。	生徒支援部	
		自治体等、地域との連携を深め、地域安全に貢献する。	・地域防災訓練への参加率65%以上。訓練不参加者へ学習機会の提供。 ・「地震等大規模災害発生時の連絡方法や行動について親と話し合っている」と答える生徒70%以上。 ・外部機関と連携した実践的な防災教育の継続。	総務部	
	予防的危機管理の実施	実習・実験等による安全管理を徹底する。	・工場安全パトロールに対応し、実習室の整理整頓を行うとともに、事故0達成。	工業科	
		生徒の生活面の状況を把握し、早期指導に繋げる。	・面接週間の定期的な実施：各学期1回。 ・生活アンケートの定期的な実施：各学期1回。	学年部	
	健康指導の推進	他団体との連携を推進するとともに、健康に関する知識・能力を高める。	・朝食欠食者へのセミナーの充実。 ・朝食摂取率90%以上。 ・歯磨き習慣に関する実態把握と率向上。 ・新入生オリエンテーションでの保護者への呼びかけや、健康管理を題材とした全校集会を実施することで、健康診断結果による再検査受診率を向上させる。	保健支援部	
		自己の健康管理を意識させる新体力テストで、男女ともに表彰を目指す。	・「1年間で体力が向上した」と答える生徒90%以上。	保健体育科	
	イ	自立や社会参画へ向け、生徒一人ひとりの教育的ニーズの把握と適切な指導および必要な支援の実践	不登校や学校不適応を早期把握し、支援・指導を充実させることで、生徒を救い育て卒業へ導く。	・「チーム担任」による学級経営力の強化。各クラス3名の正副担任による取組。 ・適切なタイミングでの保護者連携方法の運用と確立。 ・ケース会議の随時開催。 ・必要に応じた個別の指導	保健支援部 学年部

様式第1号

			<p>計画の作成と活用。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員間の情報共有強化へ向け情報交換会の週1回定期開催(1年部1h・2/3年部1h、月1回SSW参加)と校内研修の開催1回以上。 ・命を守る教育として①年度当初全職員へ関係資料の配布②厚生労働省による2学期当初の自殺防止の取組を活用③教職員対象普通救命講習の早期実施(5月中旬テスト初日)。 ・教育相談調査票(入学時提出)および保健調査票等の見直し。 	
		<p>新生徒指導提要および学習指導要領に則り、積極的に外部機関を活用することで指導を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童相談所やNPO法人、および警察・市役所等の外部機関との連携を更に強化する。その一環として関係機関から講師を招き、特別な支援を必要とする生徒への対応方法について研究する。 	<p>保健支援部 生徒支援部 進路支援部 学年部</p>
<p>「成年年齢・選挙権年齢の引き下げ」および「こども基本法」の成立等の社会変化に対応した指導の実践</p>		<p>教科指導と特別活動の往還により、成年年齢・選挙権年齢の引き下げに対応する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者講座、労務講座等と連動した教科指導の実践。 ・地域選挙管理委員会と連携し、主権者教育を実施したうえでの生徒会選挙の実施。 	<p>関係教科 (地公) 生徒支援部</p>
		<p>新生徒指導提要で重視されている、発達支持的生徒指導を推進することで、生徒の自己決定権を尊重しながら自己指導能力を伸張し、主体的・持続的で正しい行動習慣を涵養する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・TPOに合わせた、主体的な行動・選択習慣を身に付けさせるため「校則の見直し」へ生徒会の意見を反映させる。 	<p>生徒支援部</p>
<p>ウ キャリア教育の推進による能力・適性・希望に応じたきめ細やかな進路指導</p>		<p>進路意識の早期定着と向上を目指し、新たに整理した系統的な進路指導体制(「高校生のキャリアワーク」「志望理由」の活用計画の作成、就職希望者全員の「求人票閲覧システム」への移行、「進路検討会」への管理職参加)を充実させることで、進路実現を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路行事を通して進路意識が向上した」と答える生徒95%以上。 ・「進路について親と話をする」と答える生徒90%以上。 	<p>進路支援部 学年部 管理職</p>
		<p>商工会議所等と連携し、地域の産業理解を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭や放課後の時間を活用した地域企業による校内でのブース設置、延べ15 	<p>進路支援部 生徒支援部</p>

様式第 1 号

			社以上。 ・生徒アルバイト先に関する商工会議所との連携協議。	
		進路学力として、基礎基本の習得に加え、生徒個々で異なる進路目標を達成するための支援を充実させる。	・進学模試や小論文模試などの有効活用を通じた偏差値の向上。 ・大学進学希望者に関する進路検討会の定期開催（大学入学共通テスト受験対象者の検討を含む）。 ・学びの基礎診断の有効活用と、前回比較でGTZ向上者30%達成およびD3取得生徒への支援。	進路支援部 教務部 学年部
		インターンシップ、ワークラリー、海外インターンシップ等、地元企業との連携を密にし、キャリア教育の充実を図る。	・「インターンシップ等とおして、進路意識が向上した」と答える生徒95%以上。 ・「インターンシップ等とおした企業研究により企業理解が深まった」と答える生徒95%以上。	学年部
基本的な生活習慣の確立と職業人倫理観の向上		アフターコロナを意識した出席率の向上。時間厳守と挨拶の励行。	・毎日の登校指導の実施。 ・遅刻を各学年1日あたり1人未満に抑える。	生徒支援部 教務部
		学びへ向けた教室文化を醸成することで、生徒の学習環境を整える。	・学習意欲を喚起するための授業改善。 ・必要に応じた教科担当者会議の開催。	教務部
		教科指導と特別活動により年間を通して切れ目のない人権教育を実施する。	・「人権を意識し、校則(ソーシャルメディアポリシーを含む)や社会のルールを守ろうとしている」と答える生徒100%の達成。	生徒支援部 教務部(情報) 学年部 各教科
		生徒手帳への記入習慣化等を通して、自己管理能力の伸張を図る。	・生徒手帳活用に関する新たな方策の策定と運用。 ・「やるべきときに、やるべきことがやれた」と答える生徒95%以上。	学年部
エ	学習指導の充実	公開授業を充実させることで授業改善に繋げる。他教科との授業交流を行い、授業改善(教材研究)に積極的に取り組む。この時、教科横断的視点の導入を踏まえた取組を考慮する。	・公開授業を外部へも公開する。オープンスクールと合わせて一般来場者200人以上。 ・公開授業週間における教員相互の授業参観率100%達成。 ・自主的な研究授業実施者15人以上。年次研修者による積極的な取組。配布資料はワークシートのみでも可。	教務部

様式第 1 号

		学習指導要領の趣旨を踏まえ、授業改善・学習評価改善への取組を一層進め、生徒が主体的に取り組める授業づくりを行う。	・「興味を持って主体的に取り組める授業がある」と答える生徒 100%達成。 ・「授業が分かりやすい」と答える生徒 95%以上。	教務部
		学習指導要領に則った、生徒の 1 人 1 台端末の活用推進および教育の情報化推進。	・教職員研修の実施（端末活用研修の継続、HP・SNS アップ研修の実施）。	教務部 (情報)
		生徒への学習指導状況と効果を踏まえ、指導体制を見直す。	・各教科の課題を精査し、教育課程の見直し等を含め検討する。	教務部 各教科
	「役立ち感育成プロジェクト」の推進	地域との交流を積極的に行うことにより、コミュニケーション能力と自己有用感を育てる。	・「この 1 年間で、他団体との交流やボランティア活動に参加したことがある」と答える生徒 65%以上。	未来戦略委員会
		生徒のチャレンジ精神を育成することを通して、自己有用感を醸成する。	・「吉工 TED」を充実・拡大し教職員に加え、生徒も発表を行う。 ※TED = Technology Entertainment Design	
オ	Society5.0 を生き抜く人材育成へ向けた産業教育の推進	探究的な学びを充実させるとともに、新学科対応へ向けた実験・実習の工夫・改善を行い、生徒の学習成果の発表機会を充実させる。	・「ものづくりに興味を持っている」と答える生徒 90%以上。 ・イベントや出前講座等による学習成果の発表を年間 3 回以上（各工業学科ごと）。	工業科
		外部指導者を積極的に活用することで、工業教育を充実させる。	・外部指導者の活用を年間 3 回以上（各工業学科ごと）。	工業科
		生徒の技術・技能力向上に取り組み、資格検定取得者数の増加を図る。	・「資格取得に向け、努力している」と答える生徒 80%以上。	工業科
	高大連携や企業等による外部指導者の充実および専門的スキルの向上と視覚化	工業高校で学んだ知識技能を外部大会で発揮する機会を提供する。	・技能競技大会等へ積極的に参加し、4 種目以上で上位入賞する。	工業科
		企業人として必須である安全意識の確実な醸成	実習・実験時において、5 S に関する指導を徹底して実践する。	・「実習・実験では、5 S および安全確保を意識して取り組んでいる」と答える生徒 100%達成。 ・企業人による安全講習の実施。
服育の一環として、実習服着用指導を行うことで、相乗的効果を上げる。	・入学時オリエンテーションで実習服に関する内容を入れる。		生徒支援部 工業科	
カ	ホームルーム活動および生徒会活動の自主的な運営	行事等を成功させ、自己有用感を育む。 各専門委員会の活動を活性化させ、主体性および協調性を育てる。	・「伝統行事である吉峰祭に積極的に参加し、係の仕事を行った」と答える生徒 100%達成。 ・清掃活動や環境整備作業	生徒支援部 総務部

様式第1号

			に積極的に取り組んでいると答える生徒70%以上。	
	部活動の活性化	部活動の活動計画に沿って、効率的効果的に活動し、参加し易い環境を整える。生徒による応援活動により愛校心を育て、選手の自己有用感の醸成を図る。	・「部活動に無断で休まず取り組んでいる」と答える生徒80%以上。 ・部活動壮行会の定期的な開催。	生徒支援部
	読書活動を通じた知性・創造力の育成	本に親しむ習慣を身に付けさせるとともに図書館活用の促進を図る。	・図書だよりの定期的な発行と貸出数の増加。 ・「朝読書の時間は有意義だ」と答える生徒80%以上。 ・「図書館やフリーレンタルブックコーナーにある本を今年度読んだ」と答える生徒70%以上。	図書・研修部
	放送活動を通じた学校教育の活性化と、生徒の主体性の育成	生徒が放送業務を主体的に運営する環境を整備し、生徒の活躍機会を充実させる。	・昼休み、体育祭、吉峰祭における放送業務の実施。 ・校外イベントへの放送担当としての参加。	図書・研修部
キ	学校公開・情報発信の充実	工業高校の魅力を見直し、積極的に広報する。	・学校案内および広報チラシのデザインと配布方法等に関し、グローバルな視点から有効な広報方法を検討する。 ・夏季休業中に1年生・進路決定後に3年生による母校訪問を実施することで効果的な広報活動を展開する。 ・出前授業の実施について、近隣の中学校へ周知を図り、工業教育の魅力を発信する。	未来戦略委員会 学年部 工業科
		公式ホームページや公式SNSを活用した学校広報活動を推進する。	・投稿担当者を明確にすることで、公式ホームページおよびSNSへの投稿月平均10回以上。 ・投稿担当者を明確にしつつ、公式SNSを精選統合することでフォロワー1700以上。	教務部 (情報)
		情報公開を推進することで体験入学者数を増加させる。	・体験入学参加者数、前年度比15%アップ。	総務部
		体験入学の内容を充実させることで工業を志す中学生を増加させる。	・体験入学について「とても満足できた」と答える参加者65%以上。	工業科 総務部
ク	自律的で信頼される学校事務の推進	法令を遵守し、正確で迅速な会計事務処理を行う。	・監査での文書指摘事項をゼロにする。	事務部
		教職員と連携した施設設備の安全点検を実施し、計画	・「施設や設備は安全が保たれている」と答える生徒、	事務部

様式第1号

		的に改善への取組を行い、 安心安全な教育環境の整備 を行う。	保護者ともに90%以上。	
ケ	働き方改革に向けた業務改 善	ブラウザ型AI採点システ ムの導入により教員の採点 時間軽減を図る。	・新システム活用に関する 研修会等を開催し、「採点時 間が短縮された」と答える 教員95%以上。	教務部
		定時退勤に向けた目標を立て、 取り組む。	・「定時退勤日に定時退勤に 向けた目標を立てて取り組 んだ」と答える教職員が 95%以上。	管理職
		部活動の活動計画に基づい た実施に努めるように働き かける。	・「部活動の活動計画に基づ き活動できた」と答える教 職員100%達成。	管理職